

非鉄金属市況と需給動向

2023年7月(銅、亜鉛、ニッケル、金・白金族)

独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構

おことわり: 本レポートの内容は、必ずしも独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構としての見解を示すものではありません。正確な情報をお届けするよう最大限の努力を行ってはおりますが、本レポートの内容に誤りのある可能性もあります。本レポートに基づきとられた行動の帰結につき、独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構及びレポート執筆者は何らの責めを負いかねます。なお、本資料の図表類等を引用等する場合には、独立行政法人エネルギー・金属鉱物資源機構資料からの引用である旨を明示してくださいますようお願い申し上げます。

ベースメタル市況動向

銅・亜鉛・ニッケル、じりじり上昇気味も需要の冷え込みにより市場は余剰気味で上値は重い展開に

■7月市況動向

- ① 銅、上流の供給状況を受けて小幅に上下も低迷する世界経済が重し、8,500US\$/t付近を推移: 当月も中国を中心に実需の冷え込みに対する警戒が続き、期を通しての重しとなっている。米雇用統計などの経済指標は未だ米国のインフレ継続を示唆し、FRB(連邦準備制度理事会)が利上げを再開する可能性が強まる中、銅は8,355.0US\$/tでスタートした。上旬は、中国需要の弱さやDRコンゴKamoa Kakula銅鉱山の堅調な増産などの供給増加も影響し下落、5日に当月最安値となる8,251.0US\$/tをつけた。12日、6月の米消費者物価指数(CPI)の伸びが前年同期比3.0%と2年ぶりに鈍化し、米FRBが8月以降の追加利上げを取りやめる可能性が浮上、上昇に転じた。加えてペルーでは2022年から続く大統領罷免後の混乱に対する非常事態宣言が延長され、Las Bambas銅鉱山等の操業懸念により14日に当月最高値8,651.0US\$/tをつけた。20日、DRコンゴTenke Fungurume銅鉱山からの輸出再開やFreeportの尼Grasberg銅鉱山からの輸出再開許可取得が見込まれ、再び下落した。一方で、銅はEVや再工ネなどでの需要拡大やチリなどの鉱山コストの増大が見込まれており、8,400US\$/tを割る展開はなかった。21日、中国国家発展改革委員会は多数の景気刺激策を発表、産業支援等の具体的な内容は盛り込まれていなかったものの、2023年後半には景気の復調が現れるという見方も強く8,500US\$/t近辺を推移、月末は8635.5US\$/tまで上昇した。
- ② 亜鉛、生産者の収益悪化による減産が懸念される中、2か月ぶりに2,500US\$/tを超える:当月の亜鉛は2,361.5US\$/tでスタートした。同日、抗議活動によりペルーAtacocha鉱山の生産が一時停止し、墨Penasquito鉱山の輸出不可抗力宣言に続く供給懸念要因となった。さらに4日、豪Aurora Metals社が経営悪化によりKing Vol亜鉛鉱山およびMungana亜鉛鉱山がケア&メンテナンスに移行した。鉱山の操業停止による減産が見込まれる一方、初旬は米国における利上げ可能性の高まりに圧迫されたことで上昇にはつながらず、7日に当月最安値2,337.5US\$/tをつけた。中旬以降、米政策金利の緩和など世界的な需要回復期待が高まった。また中国の精錬所において、異常な熱波により再度電力制限が行われる可能性や、副産物である硫酸価格が肥料需要不振から低迷するなど採算が悪化していることを背景に、操業停止・減産懸念が持ち上がった。さらに前月Tara鉱山をケア&メンテナンスに移行したスウェーデンBoliden社は、24日、第2四半期の生産量が前年同期比20%減となったことを発表した。実需の減退はあるものの減産懸念増大により下旬は上昇基調となり、当月最高値となる2,550.0US\$/tで越月した。
- ③ **ニッケル、需要増加の手がかりにかけ21,000US\$/t近辺に張り付く:** 当月のニッケルは、20,160.0US\$/tでスタートした。銅と同様に米国を始めとする政策金利に影響を受けて小幅に上下したが、中国需要の不振に全面的に圧迫され21,000US\$/t付近を横ばいとなった。供給面ではインドネシアにおける増産を背景に逼迫感は少なく、上昇につながる要因は少なかった。将来的な需要増大を見据えて大きな値崩れはなかったが、期を通して伸び悩み、期末は21,625.0US\$/tをつけた。



需給動向 -銅-

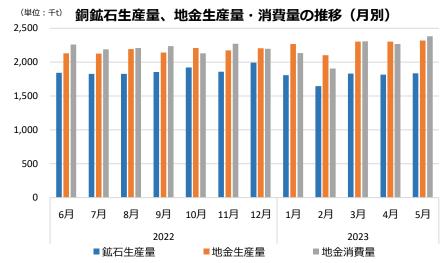
2023年5月の地金需給バランスは中国の消費量増加が影響し65千tの供給不足、鉱石生産量は横ばい

■需給動向(7月発表分)

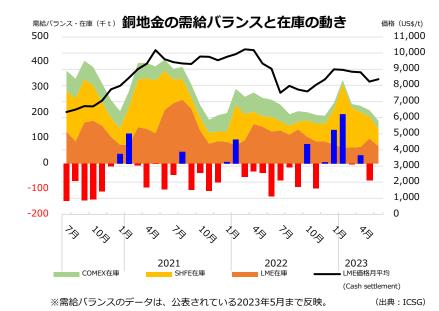
- ① 2023年5月世界鉱石生産量は前年同月比ほぼ横ばい:国際銅研究会(ICSG)によると、2023年5月の世界鉱石生産量は1,833千tで、前年同月比1.0%増と微増した。<u>チリは水不足や低品位鉱の影響で同比14%も減少したほか、中国・米国もそれぞれ約10%減少したが、ペルーはQuellaveco鉱山等の増産により約35%増加、DRコンゴも約8%増加となり相殺された。</u>
- ② 2023年5月需給バランスは65千tの供給不足に:ICSGによると、2023年5月の世界地金生産量は2,316千tで前月比約0.7%増加、地金消費量は2,381千tで同比約5%増加した。中国の地金消費量は同比5%(112千t)増加し、需給バランスは65千tの供給不足となった。
- ③ 2023年6月の主要取引所在庫は減少傾向: ICSGによると、2023年6月末現在、主要金属取引所(LME、COMEX、SHFE)の銅在庫は合計約170千tで、4月から3か月連続で減少傾向にある。LME在庫は前月比30%減少となり、中国産銅が占める比率は低下している。

■企業動向

- ① **CODELCO (チリ)**: 2023年生産見通しを推計135~142万tに下方修正。El Teniente鉱山・Andina鉱山が6月の豪雨の際に一部操業停止となった点が影響(5日)。
- ② **CMOC (中国):** Tenke Fungurume鉱山からの銅・コバルト鉱石輸出再開(10日)。同鉱山を巡り対立していたDRコンゴ国営公社Gecaminsとの和解協定に署名(18日)。
- ③ Anglo American (英):ペルーQuellaveco銅鉱山(Moquegua州)、Punta Lomitas 風力発電所(Ica州)の稼働開始に伴う電力供給を受けて、再生エネルギー100%で操業するペルー国内初の大規模鉱山となる模様(20日)。同鉱山の生産量増強を受け、2023年上半期における同社の銅生産量は前年同期比42%増の387千t(25日)。
- ④ First Quantum Minerals (FQM) 社 (加):ペルーHaquira銅プロジェクトにおける試 錐実施のための土地利用について3つのコミュニティと合意。FQM社は2010年に本案件を 取得。フル操業開始後200千t/年産のポテンシャルを有する(26日)。
- ⑤ **Glencore (スイス)**: アルゼンチンMara開発プロジェクトの全株式を取得。2026年から操業を開始し、最初の10年間は平均銅生産量200千t/年を生産予定(31日)。



(出典:ICSG)



需給動向 -亜鉛-

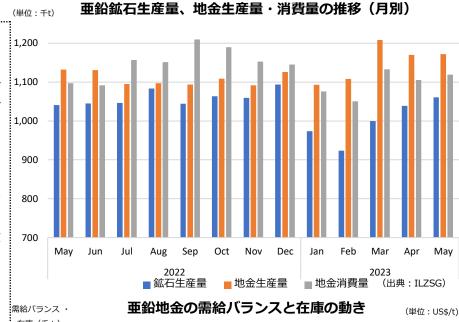
ILZSG発表の5月需給バランスは5か月連続で供給過剰、需要減退により2023年初以降緩和が継続

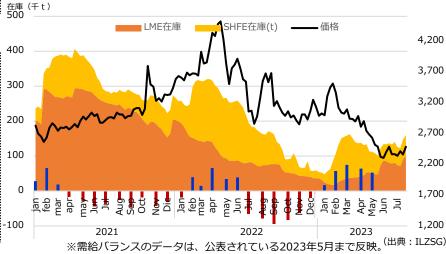
■需給動向(7月発表分)

- ① 2023年5月鉱石生産量は増加: 国際鉛亜鉛研究会(ILZSG) 2023年7月発表によると、2023年5月の鉱石生産量は1,060.7千t(対前月比2.1%増、21.6千t増)と3か月連続で増加した。豪雨で操業停止していたCentury鉱山が再開した豪州が8.7%増となったほか、米国が15%以上増産した。その他EUやボリビアにおける生産量も小幅に増加し、全体的に堅調な推移を見せた。
- ② 2023年5月需給バランスは3か月連続で供給過剰:ILZSGによると、2023年5月の地金生産量は1,172.1千t(対前月比0.2%増、2.1千t増)、地金消費量は1,119.1千t(対前月比1.2%増、13.5千t増)で53千tの供給過剰となった。地金生産量は、目立った増減の動きはなくほぼ横ばいに推移した。地金消費量は、ドイツ・イタリアなどEU諸国やブラジル・台湾などで増加した一方、米国と中国で減少したことに相殺され、世界全体では小幅な増加に落ち着いた。需給バランスは5か月連続で供給過剰となったが、地金生産量が横ばいだったことで、供給過剰幅は僅かに減少した。
- ③ **2023年1~5月需給バランスは266.9千tの供給過剰:** ILZSGによると、2023年1~5月 需給バランスは、低迷する消費量により<u>266.9千tの供給過剰</u>となった。世界経済低迷による消費の減退により消費量は伸び悩んでおり、需給バランスは緩和気味となっている。

■企業動向

- ① **Aurora Metals社 (豪)**:新規株式公開 (IPO) と価格の低迷を背景に、任意管理手続き へ。それに伴いKing Vol亜鉛鉱山およびMungana亜鉛鉱山が、ケア&メンテナンスに移 行(4日)。
- ② Vedanta社(印): 2023年第一四半期の亜鉛地金生産量が過去最高を記録(6日)。
- ③ インドネシア:国内製錬所の建設を奨励するため、亜鉛地金の輸出税を引き上げ(18日)。
- ④ **Excellon Resources社(加):** 米Orion Resource Partners社との間で締結していた、 La Negra銀・亜鉛・銅・鉛鉱山(墨Queretaro州)買収に係る最終契約が不成立に(21 日)。





需給動向 -ニッケル-

尼政府、ニッケル版OPEC構想について3か国と協議継続中、尼PTVIの2023年上半期生産量が好調

■需給動向(7月発表分)

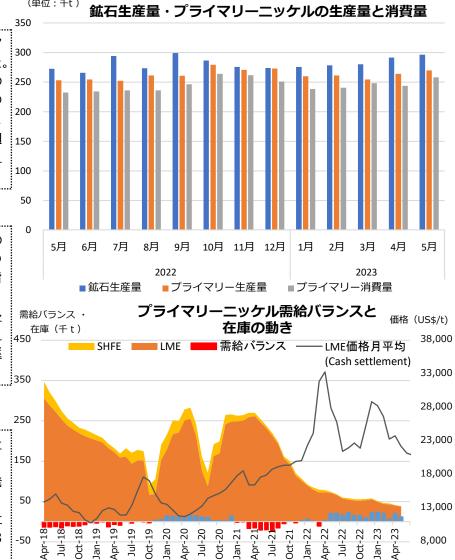
- 2023年5月プライマリーニッケル需給バランス:国際ニッケル研究会(INSG) 2023年7 月発表によると、2023年5月の世界ニッケル需給バランスは11.9千tの供給過剰となった。
- 2023年5月の尼ニッケル生産・輸出状況: INSGの国別データによると、インドネシアの プライマリーニッケル生産量が111.0千t(前月112.0千t)となった。また、同国からの ニッケルマットの輸出は、中国向けが52%増(前月比)、日本向けが50%増(同)と なった。また前月はノルウェー向けがなかったが、5月は9,699tの出荷があった。日本向 けにマットを出荷しているPTVI(PT Vale Indonesia)の2023年上半期の生産量は、 33,691tと前年同期比で28%増となった。

■関連動向

- ① IMF、尼に鉱石輸出禁止の廃止を要求: 国際通貨基金 (IMF) は、尼政府のニッケル等の鉱石輸出禁止措置を廃止するよう要求、同国の高付加価値化に対する動きは歓迎するものの、他国への影響を最小限にするよう必要があると指摘。よって鉱石輸出禁止措置は段階的に廃止し、ニッケル以外の鉱種には拡大すべきでないと主張(4日)。
- ② **尼、ニッケル版OPECについて3か国と協議を継続:**<u>尼政府は、2022年11月にニッケル</u> 生産国によるニッケル版OPECに関する構想を公表。2022年はカナダや豪州と協議を行っ たが、Bahlil投資大臣は、具体的な国名は公表していないものの、現在も3か国と協議を継 続していると発言(5日)。

■企業動向

- ① **Wyloo Metals社(豪)**: Mincor Resources社の株式90%を750mA\$で買収。Mincor社が保有するWA州Cassini硫化ニッケル鉱床の獲得が買収の主な要因(5日)。
- ② **Panoramic Resources社(豪):** Savannahプロジェクトの選鉱処理施設にて、前月発生した選鉱施設の修理が完了、フル稼働生産を再開(10日)。
- ③ **Vale (伯)**:銅二ッケルを含むベースメタル事業の13%株式をSaudi Arabian Mining社 とサウジアラビアのPIF (Public Investment Fund)のJV企業に3.4bUS\$で売却(28 -50 日)。



※需給バランスは2023年5月まで、LME・SHFE在庫は2023年6月まで反映。 (出典: INSG及びBloomberg)

需給動向 -金・白金族-

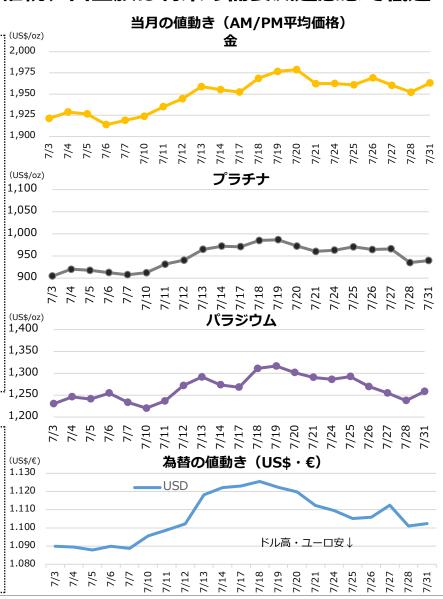
金は米インフレ鈍化による利上げ打ち止め観測等で高値を継続、白金族は将来の需要減退懸念で低迷

■金市況動向

- ① 米インフレ指標の鈍化で上昇もFRBは追加利上げを主張: 当月1,921.3US\$/ozでスタート6日、米ADP雇用統計が予想(225千人)に反し497千人と大幅な伸び等、米国の好調な経済指標を背景に下落、当月最安値の1,914.0US\$/ozをつけた。しかし翌7日発表の米失業率は3.6%と横ばい、非農業部門雇用者数も予想(230千人)と比べ209千人と減少し、上昇に転じた。12日の米消費者物価指数(CPI)発表まで様子見ムードの中、ドル安も相まって上昇基調が続いた。CPIの結果は対前年同月比3.0%増と伸びが12か月連続で鈍化、これを受け連邦準備制度理事会(FRB)の利上げが長引くとの警戒感が後退し、一層上昇した。翌13日発表の米生産者物価指数(PPI)も対前年比0.1%増と予想(0.4%増)を下回り、インフレの鈍化が一層意識され上昇した。同日、FRBのWaller理事が「インフレ率を目標まで下げるには年内2回の追加利上げが必要」と述べたこと等で、翌14日は上げ止まった。
- ② 中国の景気回復の遅れやFRBの利上げ打ち止め観測で更に上昇:週明け17日発表の中国実質 GDPが6.3%増と「ゼロコロナ」からの回復を見せたものの予想(7.1%増)は下回り、また 翌18日発表の米小売売上高も前月比0.2%増と予想(0.5%増)を下回ったこと等からFRBの 利上げが今月で打ち止めとの観測が拡大、ドル安も進行し上昇、20日、当月最高値の 1,978.8US\$/ozをつけた。翌21日は米新規失業保険申請件数が228千件と予想(240千件)より好調だったこと等を背景に下落した。
- ③ **FOMCの利上げ決定も冷静な受け止め:**翌週26日、<u>連邦公開市場委員会(FOMC)が0.25%の利上げを決定</u>し同日は上昇に振れたが、FRBのPowell議長が「先の政策は未定」と表明、翌27日発表の米GDP(2Q)が2.4%増と好調なこと等を背景に値を戻し、1,963.1US\$/ozで越月した。

■白金族 (PGM) 動向

- ① プラチナ市況:中国の「ゼロコロナ」後の景気回復が遅れ気味で今後の見通しの不透明感も意識され、月を通して1,000US\$/ozを下回る安値で推移した。当月最安値の904.5US\$/ozでスタート。19日に当月最高値の986.5US\$/ozをつけ、939.5US\$/ozで越月した。
- ② パラジウム市況: <u>将来のEV普及による需要減退等が意識され、1,200US\$/oz台という約4年半ぶりの低調な市況を記録</u>した。1,230.0US\$/ozでスタート、将来の需要先細り懸念から下落、10日当月最安値の1,220.0US\$/ozをつけ、その後安値買い等から回復し、19日に当月最高値の1,316.5US\$/ozをつけ、1,258.5US\$/ozで越月した。
- ③ Amplats社(南ア): 2023年上半期、金属価格の下落や深刻な南アの電力不足、 Polokwane精錬所のメンテナンス等により対前年同期比75%減少の見通し(17日)。



(参考)

(2003年5月=1)**亜鉛** プラチナ |パラジウム|1000 ニッケル 金 AM・PM平均 LME現物 LME現物 LME現物 AM・PM平均 AM・PM平均 8.00 (US\$/oz) (US\$/oz) (US\$/oz) (US\$/t) (US\$/t) (US\$/t) 2,361.50 7.00 本報告期 期初 8,355.00 20,160.00 1,921.25 904.50 1,230.00 8,635.50 2,550.00 1,258.50 期末 21,625.00 1,963.10 939.50 5.00 最高値 8,651.00 2,550.00 21,650.00 1,978.80 986.50 1,316.50 7月14日 7月31日 7月28日 7月20日 7月19日 7月19日 3.00 最安値 8,251.00 2,337.50 20,160.00 1,913.98 904.50 1,220.00 7月5日 7月3日 7月3日 7月10日 7月7日 7月6日 平均 8,445.26 2,396,60 20,898.33 1,949.21 947.48 1,265.95 0.00 May-03 Feb-04 Nov-04 Aug-05 May-06 Feb-07 Nov-07 Nov-10 Aug-11 May-12 Feb-13 Nov-13 Nov-14 Nov-15 Nov-15 Nov-16 Nov-17 Nov-16 Nov-17 No 先物 21,905.00 3か月 8,670.50 2,540,00 (7月31日) 8,720.00 2,562.00 22,970.00 24-Dec 製造業購買担当者景況指数(PMI) 25-Dec 8,740.00 2,567.00 23,870.00 2023年 期初 8,390.00 3,004.00 31,200.00 1,839.15 1,084.00 1,799.50 60 57 (当年) 期末 8,635,50 2,550.00 21,625.00 1,963.10 939.50 1,258.50 54 最高値 9,436.00 3,509.00 31,200.00 2,040.38 1,113.00 1,811.50 1月18日 1月27日 1月3日 5月4日 5月10日 1月9日 48 2022/3/ 3/ 2/ / 6 7 45 最安値 7,910.00 2,224.00 19,745.00 1,813,85 896.00 1,220,00 42 5月24日 5月25日 6月29日 2月27日 6月30日 7月10日 39 平均 8,665.56 2,771.29 23,725.72 1,934.08 1,000.33 1,470.71 36 33 欧州 __ 米国 中国(国家統計局) 中国(財新) 米国経済 7月の製造業PMI(IHS Markit社発表)は49.0(前月:46.3、予測:-)と予想通り前月より下落した。7月非農業部門雇用者数(米国労働省 発表)は前月比18.7万人増(前月:18.5万人増、予測:20.0万人増)、失業率は3.5%(前月:3.6%、予測:3.6%)となった。労働市場は

主要非鉄金属の価格推移

(JOGMEC作成)

米国経済 7月の製造業PMI(IHS Markit社発表)は49.0(前月:46.3、予測:-)と予想通り前月より下落した。7月非農業部門雇用者数(米国労働省発表)は前月比18.7万人増(前月:18.5万人増、予測:20.0万人増)、失業率は3.5%(前月:3.6%、予測:3.6%)となった。労働市場は前月より改善はしたものの予測を下回っており、経済回復期待への失望感が広がっている。

中国経済 7月製造業PMIは、国家統計局発表は49.3(前月:49.0、予測:48.9)、財新発表は49.2(前月:50.5、予測:50.2)と財新が予測を大幅に下回り、さらなる経済の低迷を示唆した。

欧州経済 7月製造業PMIは42.7(前月:43.4、予測:42.7)と13か月連続で50を下回り、経済が後退し続けている。